

平成26年度



学校評価 後期教職員版



京都市立嵐山東小学校



学校評価：後期教職員版

本校の教職員自身が今年度（或いは昨年度より2年間）を振り返って教育活動の総括をしました。数字の後ろの「A」は自分自身を振り返っての成果と課題、「B」は学校全体を振り返っての成果と課題です。また、「C」はそれ以外の意見や感想を掲載しました。

1-A

（勉強しなければならない！）

ということを痛感させられた一年でした。

「発達」のこと「発達障害」のことは、自分なりに勉強してきたつもりでしたが、まだまだ勉強しなければならない課題があり、もう少し早くこのことを知っていれば、違った対応ができたのに…と思うことしきりでした。今年学んだことを、今後に生かしていきたいと思います。

しかし一方、ひらがなの読み書きが全くできなかった二人の児童が、この一年で、かなり読み書きができるようになったことは、私にとって大きな成果といえます。

1-B

5月の学級交流会、10月の西京東支部育成学級合同運動会が成功したことが一番の成果です。4月からあおぞら学級に、全クラスが来ていただいたり、学級指導や学級活動の取組を通して、温かい目であおぞら学級の子どもたちを見守る姿勢が出来上がってきたように思います。6年生の児童が、あおぞら学級の児童の目線に立って優しく声をかけ、マラソンに参加している場面を見受けました。とても嬉しい出来事でした。

これからも、違いは違いとして認めながら、「みんな違って、みんないい」という意識を持つ児童が育てばいいなと思いました。

2-A

学級は発達段階が様々な子たちの集団で、自分の思いを持つこと自体が難しく、その子の行動で何をしたいと思っているのかを判断している。子ども同士の関わり合いの中で自分の思いが持てるように働きかけてきた。また、コミュニケーションをとること自体が困難であるが、朝の会・生活単元学習・道徳などで話し合いを持ち、相手が分かるように話す能力を身につけるようにしてきた。

学校のきまりや社会の基本的なルールを守らせるために、できるまで何度も声かけをしている。なぜそのきまりがあるのかを分かるように噛み砕いて説明をして、意識して行動できるようにはたらきかけてきたがなかなか守れなくて今後の課題だと思う。

体を動かしたり気分転換をしたりしながら、気持ちを切り替え、時間をかけて授業に入るようにしてきた。また、学習内容は興味を持てるように工夫したが、その他のことへ気持ちが行ってしまふことが多かった。言葉遣いが乱暴になったり、手足が出る時もあったり、言葉を通して意思を伝えられるように指導したがやり切れていなかった。相手を思いやる気持ち、相手の立場を考えて行動出来るようにさせたい。

毎日連絡帳を交換してきた。子どもによっては保護者の送り迎えがあるので、その時に、学校での様子を伝えるようにしている。学校の様子を連絡帳に詳しく書いて保護者に伝え、家庭での子どもとの話し合いの参考にしてもらっている。保護者の方も家庭での様子を書いてくださり指導に役立った。



2-B

西京東支部育成学級合同運動会が本校で実施され、練習を含めて準備で教職員の皆さんにお世話になりありがたかった。

災害時における初めての児童の引渡し訓練は他校の実施案を参考に計画を立てて取り組んだ。保護者の方にスムーズに引渡しできて良かった。

あいさつは誰に出会っても必ず目を合わせてするようにしている。特に子どもにあいさつをするときは、かがんで子どもの目線に合わせ元気良くしてきた。

3-A

学校のルールは守るのが当たり前だ、学校は楽しいところだと感じてくれる子が増えるようにと考えて2年間取り組んできました。

ルールについては、周りの大人が手本になることが大事だと思うので、できるだけそのようにしてきたつもりですが、だんだんと注意を増やすことが増えてしまいました。「きちんとできている子を褒める」ということをもっとしていくべきだったなと反省しています。

学校が楽しくなるためには、友達との関わりがうまくいっていることが大事だと思います。そのため、何かトラブルがあった時に子どもたちの話をしっかり聞くようにしているのですが、それでもまだ不十分だったと思います。もっと時間をかけて子どもの気持ちに寄り添えるようにしていきたいと思います。

学校が楽しくなるためにもう一つ大事なことで、授業が楽しくなるようにいろいろな活動を組み込むよう心がけて取り組みました。子どもたちは全般にとっても意欲的に取り組んでいます。意欲を持続させていくためにも、まだ改善の余地があったと思います。

3-B

一昨年4月に見受けられた「集会での私語が多くて話が聞けない」という状態から、話が聞ける子がずいぶん増えてきたと思います。特に、きらめきタイムでは、話を聞いて感想言ったり

質問をしたりすることができるようになってきました。低学年の子が途中で立ち止ってしまっても静かに待つなど、相手を大事にする気持ちや思いやりも出てきたようです。

また、規範意識についても校舎内を外靴で歩いたり中庭に上靴で出たりする子がほとんどいなくなり、音楽が流れると大半の子が遊びをやめて教室に向かうなどかなり良くなってきていると思います。

しかし、朝、校門ではあいさつをしてもその後は校内で出会ってもあいさつができなかったり、トイレのスリッパも言われなければ揃えなかったりという状態なので、くり返して声をかけるなど、継続して取り組んでいく必要があると思います。

また、本校では、登下校や部活動をはじめ、生活科や総合的な学習などいろいろな場面で地域の方に協力をしていただき、本当にありがたいことだなと思います。

4-A

嵐山東スタンダードや生徒指導の会議でルールについて何度も確認できたので、明確なルールが確立できました。今後、指導にあたる時に今の指針を持って指導をすればぶれることは無いだろうという自信ができました。

本校は道徳を研究テーマとしており、研究部で授業を検討した後、実際に授業をして、反省をして研鑽しています。いろいろな教師の考え方、授業の展開を見ることができたので、一つのテーマについて多角的に考えることができるようになってきました。来年度も研鑽を積み、より良い授業ができるように努力します。

「聞く力」が大切だと認識しながらも、まだまだ児童に「聞く力」を指導しきれていません。日々の忙しさの中から、児童が聞く体制を整えられていない時に話を始めてしまったことや、余裕がない時に話を聞けていない児童を見逃してしまったことが大いなる反省点です。来年度は話を聞けていない児童を見逃さず徹底的に指導していきます。

忙しさにかまけて、日々の振り返りがあまりできませんでした。（今年度はあっという間に1年間の過ぎてしまった印象でした。）来年度は、日々の振り返りを大切にして、自己研鑽に努めます。

4－B

そうじを自主的に頑張る児童が増えたと思います。ぴかその指導で「みつけ玉（自分で仕事を見つける）」「しんせつ玉（友達と協力をする）」「がまん玉（黙ってそうじする）」を言い続けているので、それらが身についてきています。日々のそうじの中で、今日はどこを掃除しようかと考えながら、掃除をしている児童の様子を見ると力がついていることが分かります。

「聞く力」が2年前の4月の頃から比べるとずいぶんついてきていると感じます。集会や朝会などで、頑張って話を聞こうという児童の姿が多数見られるようになってきました。

たてわりグループ活動では、1年生から6年生までが仲良く活動できていました。特に、6年生がリーダーシップを発揮して、下級生を引っ張っていた姿が頼もしかったです。下級生は最上級学年の6年生の姿を見て育つものだと思います。この活動は、今後も継続して、嵐山東小学校の良き伝統として受け継がれていく欲しいです。

あいさつは、できるようになってきた児童も多数いるのですが、まだまだ不十分に感じます。大人が声をかけてから、あいさつをするのではなくて、自分から進んであいさつできる児童になって欲しいと願っています。そのために、来年度以降も継続して大人が手本を示し、元気な声であいさつをしていく必要があると思います。

「聞く力」について、落ち着いて聞けるようになってきたことは一定の成果だと思いますが、嵐山東小学校の児童の「聞く」はまだまだ受け身の部分が多いと思います。次のステップとして、「能動的に聞く力」をつけることを目指して指導していく必要があると思います。「能動的に聞く力」がついた時には、きらめき

タイムなどの全校児童の前でも積極的に質問ができるようになるでしょう。全校児童がそのようになれば、学校での発表が今よりももっと活発になり、楽しくなること間違いなしです。

「学校のルールを守ること」についてですが、おおまかなルールは守れているものの、細かいところでは、ルールが守れていないところがまだあります。嵐山東スタンダードを活用しながら、ルールをしっかりと確認し、今後も指導を徹底させる必要があると思います。

4－C

嵐山東小学校は、教職員が一致団結するととても良い学校だと思います。職員室で、困っている先生がいたら、率先して助け合いますし、いろいろな場面で協力しているところがたくさん見られます。6年生を送る会でも、全力でダンスしている姿が素晴らしかったと思います。（自画自賛ですが…）

教職員が仲の良い学校だと、児童も伸び伸びとおおらかに過ごせると考えています。来年度以降は今よりもさらにさらに一致団結して、教育に対して真剣に取り組めますので、よろしくお願いします。

5－A

「こんな子どもになってほしい」と思っていることを、教師自身がきちんとやっているのかを改めて考えさせられた2年間でした。チャイムが鳴ったら、すぐ授業を始めているのか、子どもにあいさつしろと言っているのに、教師自身が大きな声であいさつしているのかなどです。当然のことですが、教師がやらなければ子どもはやりません。保護者と子の関係もそうではないでしょうか。まずは、大人が襟を正し、メリハリをつけて子どもと接することが、より楽しく子どもが学校に来ることにつながるのではないのでしょうか。



5-B

この2年間で子どもの規範意識は向上したと思います。しかし、理想の学校像としては、まだまだだと思います。本当の意味で、6年生が学校を引っ張れるようになるには、時間がかかると思います。そのためには、今やっていることを継続・改善を続ける必要があると思います。今の低学年が、高学年になったときに学校の核となってくれるようにしていくビジョンで、学校運営を図っていく必要があると思います。

6-A

学習環境を見た目や雰囲気から整えることで子どもたちの集中力も上がると感じた。はじめのあいさつをしっかりとすること、大きな声でいねいに返事をさせること…子どもにとっては面倒だと思うようなきまりも、学習に向かう上で大切なことなのだと思う。今後とも子どもたちに伝えていきたい。

なかよしチャレンジや国語科の学習では、司会者をつくって話し合いの場づくりの練習をさせた一年間であった。低学年のうちに話し合いの形の基礎を学んでほしいと思い、生活科や道徳などあらゆる場面で話し合い活動を取り入れた。子どもたちも意気込んで、司会者・発言者と分かれて「きっちり」話し合う姿が見られた。学習したことをその授業のみで完結させてしまうこともあるが、様々な場で応用していくことの大事さを実感する一年だった。

学校では、委員会活動やクラブ活動・部活動などの場で普段はなかなか接しない児童とたくさん関わる。その上で、多様な児童観・指導観が必要とされるが、自分自身理解に不十分だったところがあったと思う。その学年の実態や、思っていることなどをより考えられたら、もっとスムーズに子どもたちも活動したかも、ということがあった。他の学年の先生方とより連絡を取り合い、どの児童にも合った指導方法をさらに学ぶ必要があると感じた。



6-B

言葉遣いについて…

全体として、あいさつが自らできたり、「です」「ます」をしっかりと伝えたりするようになってきたと思う。わたし自身、子どもから元気な声でいねいな声掛けをしてもらおうと、うれしくなった。(心の中で「わたしもがんばろう!」と思えた。)

しかし、一部の子どもたちは「人」に対しての態度として失礼な言動をする子もいる。この学校では広い心で見守ってもらえるが、一歩外に出たらあきれられてしまう。小学校のうちから、礼儀やマナーを教えていきたいと思う。

教職員について…

昨年度からさらに「報・連・相」を密に取り合い、細かな連絡も共有できていることが多くなったと感じる。危ない行動をしていた児童、いつも以上に頑張っていた児童…さまざまな方向からの子どもの様子を交流し合うことで、より熱心にその児童を見守ることができた。

保護者について…

今年度も保護者の方々に支えられたと本当に感じている。子ども・学級をあたたかい目で見えていただけた。間違いや問題が起こっても、一緒に考えてくださり、最後には「また自分の子どもが良いことも悪いこともあったら、ぜひ教えてくださいね。」という言葉をいただき、「また自分もステップアップして、安心できる学級をつくろう」という意識も持てた。ありがとうございました。

6-C

・6年生を送る会が終わった後に、保護者から「〇年生の発表、とても声がきれいでよかったです。」「先生方の踊り、元気が出ていてとても楽しかった。」といったフィードバックをいただけて嬉しかった。こういった何気ないやりとりがとても自分にとっても刺激になると感じた。

・ピオトープがさらにきれいになっていることをとても感じる。管理用務員や栽培委員，地域の方々のおかげで見た目も美しくなって気持ちの良い学校になっている。小さなことを積み重ねることが大切だと感じた。

7-A

◎学級経営について

《成果》

- ・学校全体としても意識して取り組んでいた「一貫した指導」を意識して取り組みました。教師，大人がぶれずに子ども達と接することで子ども達もやるべきことを理解したり，ルールを守ったり，少しずつ成長する姿を見ることができたと感じています。
- ・何事も「やることの意義」のようなことを伝えたり，自分達で「どんなめあてを持って取り組むのか」ということを考えてから取り組むようにした結果，上手にできる子は更なるスキルアップを意識して取り組むようになり，上手く取り組みにくい子も「頑張りたい」という気持ちを持って取り組んでいたように思います。その結果，子ども達の取り組み方は，何事にも一生懸命になったと思います。
- ・一人一人に「得意・不得意がある」ということを日頃から言い続けました。その結果，学習や生活の中で困っている人を助けたり，自分が困っていたら助けを求めたりという助け合いの心が育ったと思います。

《課題》

- ・子ども達が自ら積極的に主体的に活動，行動できるような準備・声掛けが出来れば良かったと思います。子ども主体という学級経営をもう少し勉強していく必要があると思いました。
- ・子ども達のやる気・やさしさに助けられた一年でした。逆に自分の準備不足や力不足でイライラしてしまうことがあったと思います。大変な時こそ，上手いかない時こそ，教師が落ち着き，笑顔で学級を経営していきたいと思います。

◎学習指導について

《成果》

- ・年度当初，なかなかノート記述が難しかった子ども達ですが，根気よく，続けた結果，年度末にはほとんどの子どもがしっかりとノートを取ることができるようになりました。
- ・各教科，出来るだけ「自分の考え」を持つ，相手に聞いてもらう，書くということを繰り返し行いました。書くことや発表が苦手な子ども達も少なからず強制的にでも場の数を踏むことで「自分の考えを持つことは大切だ。」ということを感じさせることが出来たのではないかと思います。
- ・サインの仕方・ハンコ・シールなどを駆使して，子ども達のやる気を出来るだけ引き出せればと思い取り組みました。その結果，自主的に予習・復習をしたり，自主ノートを作って漢字や計算の練習に励む子どもが出ました。

《課題》

- ・基本的には，45分を意識して授業を作っていかなければなりませんが，子ども達の理解度や反応を見て，ついつい授業が延びることがありました。必要な場合もあるかとは思いますが，自分の教材研究の甘さを感じました。
- ・授業の形態，流れを基本的に定めることで，やるべきことを理解しやすい授業を作ったつもりです。しかし，子ども達が出来るようになるとともに，飽きてくる部分ももちろん出てきます。そこを飽きないようにする工夫がいまいち，準備しきれなかったことは大きな反省です。

7-B

《成果》

- ・教職員全体が，何事も共通理解し，同じ方向を向いて，協力しようと意識的に取り組むことで，様々な面で子ども達へぶれない指導をすることができたのではないかと思います。
- ・「なかよしチャレンジ」や「きらめきタイム」など，これまでなかった取組が子ども達にとって，成長の糧となっていたと思います。

《課題》

・教職員全体が「一枚岩に」と意識しているがゆえに、小さな認識違いが気になりました。細かいことではありますが、名前の呼び方、言葉遣い、教室の移動の仕方、遊び方、ぴかそなどなど、「教師采配」になっているところも見えてきたような気がします。子ども達は確実に成長しているとは思いますが、より一歩上を目指すのであれば、「これくらいは」ではなく、私達が面倒くさがらず、疑問に思うことを追及して話し合っていく必要があると思います。

7-C

・大人の姿を子ども達は見ているということを様々な場面で考える一年でした。

本校にこのような保護者がいらっしゃるかどうかはわかりませんが、先日、食事に出かけた際にレジ付近で呼ばれるのを待っていました。すると、次のような方がいらっしゃいました。

両方とも家族の方だったのですが、お父さんらしき人がお会計をされていました。店員さんが、「レシートはどうされますか。」と尋ねられると一人の方は「ええわ。」と答えられました。もう一人の方は、「結構です。ごちそうさまでした。」と答えられました。この二組の対応は、両極端で、子どもがこの二人の姿をそれぞれ見て育ったとしたら、感謝の気持ちを持って接することが出来る子どもに育てるには…と考えました。言葉では、「感謝の気持ちを持ちなさい。」と言いながら、大人の言動は子どもの手本になれるものか、今一度考えてみる必要があるなと思いました。

8-A

・児童が「楽しい！」「やりたい！」と思える、意欲に沿って進める授業を十分に行えませんでした。「しかけ」を十分に検討し、授業力の向上に努めたいです。

8-B

・あいさつ運動、生活における「当たり前」の定着のために大人が率先して動き、「継続・実践する」ことはとても大切だと思います。学校力の一部になれるよう、尽力します。

・学校評価を見ていると、概ね、学校・学年・学級への信頼・期待があることを知ることができました。しかし同時に「HP更新により、学校状況が把握できたこと」「校長先生・教頭先生などをはじめとした、管理職・7年生の先生方の一手間」が相当あり、現状に至っていることもよく分かります。今行っていることを丁寧に、継続することも大切であるし、そうした「外部への発信」つまりは学級・児童の状況伝達を一担任も、今まで以上に学級通信・HP更新等でこまめに行い、より「クリアーで、風通しのよい学校と家庭」を意識していく必要があると思います。（家庭の信頼・協力あっての子の成長、円滑な学級経営だと思うので。）

8-C

・職員室の雰囲気がいいと教師が笑顔になり、教師が笑顔だと子どもとのかかわり方にも余裕をもてるようになり、子ども同士も笑顔になり、言動が落ち着いたり、整ったりするのだ…（逆もしかり）と実感します。家庭も学校も、「子どもの心が安心できる環境づくり」に努めることが大切だと思います。目の前の子どもは「周囲の大人の姿を映す鏡」だと忘れずに…。

9-A

限られた時間の中で担任の求めることに對して、答えようと子どもたちはがんばってくれています。掃除時間に集中してできていなかった子が多かったのですが、最近子どもたちが静かに掃除することを目標にがんばってくれています。人のことを考えての言動や、私語の多さに課題が残りますが、一人ひとりの意識を変えてくれることで、全体の雰囲気が個人の力を伸ばしていってくれると思っています。

9-B

12月中旬からこちらに戻って来ましたが、昨年度に比べ、たてわり活動やあいさつ運動をはじめとする、子どもたち主体とする活動が増えていたことが、より充実しているように思いました。特に高学年の子どもたちが責任感を持ち主体的に動き、下の学年の子どもたちをリードしてくれている姿がよく見られるようになりました。今後の課題として、高学年だけでなく、中学年、低学年にも主体的に学校を動かしていけるような取組があればいいなと思いました。

と、書きましたが、あまり行事や取組が増えすぎると子どもたちへの負担が大きくなると思いますので、従来の取組を精選しつつ、新しい取組を考えていけば良いと思います。

10-A

・子どもたちが「気持ちの良いあいさつをする」ことができるように、私から気持ちの良いあいさつをするよう、意識して取り組んできました。以前に比べると、気持ちの良いあいさつをする児童が少しずつ増えているように思います。とは言え、まだまだ不十分であることは否めません。保護者の方も書かれているように、私も「こちらからあいさつしても反応がない子もいますが、そこは根気よくあいさつし続けたい」と思います。何事もそうですが、できるようになるまで、そして定着するまでには時間がかかるものです。種を植えてから芽が出るまでには、水やりなどを適切に行っていたとしても時間がかかります。水や栄養などを適切に与えながら「待つ」ということもまた、大切な教育の一部だと思います。どの子もいつかは芽を出し…花を咲かせることを信じて、水や栄養などを適切に与えられる自分でありたいと思います。なかなか芽が出ない(変化が見られない)人ほど、変わる時には一気に変わるものです。目の前に変化が見られなくても、今日気持ちの良いあいさつの言葉をかけたことは、必ず相手の心のどこかに残ります。それらが積み積み

って心に満ちた時、そこから溢れ出すように、変化が見られる(あいさつをするようになる)ことでしょう。こうした変化を信じて行動を続けることが教師の務めであり、大人の責任であろうと思います。私たちが生きるこの社会がより素晴らしい社会になっていくように、今後も、気持ちの良いあいさつを意識して取り組み続けます。気持ちの良いあいさつの輪が、嵐山東から広まることを夢見ながら――。

- ・子どもたちが「人の話をしっかり聞くこと」ができるように継続して取り組んできましたが、これは、まだまだ道半ばと言えます。今年度、自分の中で最も大きな気づきの1つが、「今までの自分は、“話をしっかり聞かせる”という意識がいかに甘かったか」ということです。話を聞かせる状態にする前に話をしている場面がたくさんあったことに、今さらながら気づかされました。それ以来、特に大切な話をする時には、「十分に話を聞かせる状態にしてから話をする」ということを意識して取り組んでいます。少しずつでも「人の話を“しっかり”聞く」方向に向かえるように、今後ますます、「持っている物を置く」「目を見る」「腰骨を立てる」ことを声かけし確認し続けていきます。人の話をしっかり聞くことが当たり前になることを目指して――。
- ・子どもたちが「学校のルールを守ること」ができるように、ルールを守れなかった際にはルールを再度確認し、適宜、ルールの必要性について考えさせたり確認したりしてきました。その結果、「ルールを破るのは悪い」という意識は定着しているように思います。しかしながら、「悪いと分かっているけど、そっちの方が楽だから(楽しいから)やってしまう」という姿はまだまだ見られます。体育館シューズのまま教室で過ごしてしまったり、廊下を走ってしまったり。小さなことだといって見逃していると、それが大きなことにつながりかねません。今後も一つひとつ、気づいた時にルールを確認し、ルールを守る

ことが当たり前にできることを目指していきます。当たり前のことが当たり前でできることの尊さを信じて――。

- ・子どもたちが「自分や人を大切にすること」ができるよう、良いところを学級でとり上げて伝えたり、誰かを傷つける(かもしれない)発言・行動に対してはすぐに自省を促したりしてきました。その結果、お互いに認め合う場面がたくさん見られたことを嬉しく思っています。しかしながら、誰かを傷つける(かもしれない)発言・行動は少なからず見られます。そうした時に尋ねると、「遊びのつもりだった」と言うことも少なくありません。それに対して、「それは遊びじゃない。意地悪だ」「いじめにつながりかねない」ということを繰り返し確認しています。子どもたちは、安易に発言・行動をしている場面が多々あります。それをとらえて繰り返し自省を促すことを、今後も意識して続けていきます。また、それとともに気になるのが、「自分は馬鹿だ」などと、自分を傷つける言葉を平気で使う子どもがいることです。子どもたち(人)には能力差がありますが、ある分野で秀でている子(人)は、別の分野で劣っている。ある分野で劣っている子(人)は、別の分野で秀でている。今では、そのように考えるようになりました。優れた子と劣っている子がいると考えていた以前からすると、たいへん大きな変化だと思います。私がそのように考えるようになったのは、「劣っていると考えられてきた人が、実はそうではなかった」という例をたくさん知るようになったからです。(たとえば、ある子は「言葉を発することができずに、ほとんど何も分かっていない」と考えられていたにもかかわらず、パソコンを使うようになったことで意思表示ができるようになり、非常に高度な思考を展開していることが分かった。など)子どもたちが自分を大切にするには、私たち大人が子どもたちを大切にすることが不可欠です。「あなたのことを大切にしている」ということが子どもたちに伝わるよう、言葉

や態度で示し続けていける大人でありたい。自分が大切にしてもらった時に感じた喜びを、子どもたちにも味わわせることができるように――。

- ・子どもたちが「学習に集中して取り組むこと」ができるように、授業力の向上に取り組んできました。その中での主な成果と課題は、次の通りです。
 - ① 「聴覚入力」と「視覚入力」を組み合わせることを意識することで、学習に集中して取り組む時間が増えた。
 - ・早くできた子に言わせたり(周りの子に対する、耳からの情報入力；聴覚入力)、黒板に書かせたり(周りの子に対する、目からの情報入力；視覚入力)する活動を積極的に取り入れることで、学習が得意な子の空白の時間を減らし、学習が苦手な子も学習に取り組みやすいようにしてきました。子どもたちの中には(大人もそうですが)「視覚優位の(目から情報を入れる方が得意な)子」もいれば、「聴覚優位の(耳から情報を入れる方が得意な)子」もいます。したがって、視覚情報と聴覚情報をどのように組み合わせていくかは、私たち教員が意識的に取り組む課題だと思います。今後、さらに子どもたちに力をつけられるよう、より良い組み合わせ方を試行錯誤し続けます。
 - ② 「テストで(も)学力をつける」ということを意識することで、テストを有効に活用できるようになってきた。
 - ・小学校でのテストは、学力を測る側面もあるが、「テストを通して学力をつける」という視点が不可欠。そのように聞いて非常に納得して以来、「テストで(も)学力をつける」ということを意識して取り組んでいます。どの子も、「テストでいい点をとりたい!」と思っています。テストの時は、子どもたちが一番頑張る時です。その頑張ろうという気持ちを少しでも学力に結び付けられるように、意識して取組を続けてきました。テストを通して学力をつけることにつながると判断す

れば、ヒントを教えることもあります。（私たちの仕事は点数をつけることではなく、子どもたちに力をつけることだからです。）また、行ったテストは、なるべく早く返すように心がけています。（テストが返ってくるのが遅くなればなるほど、子どもは点数にしか目がいかなくなるので。）テストを使ってさらに学力を伸ばせるよう、テストの有効な使い方を模索し続けます。

③ 子どもたちの答えなどを評定する（得点をつける）ことで、子どもたちの学習に対する意欲を引き出せる場面が増えてきた。

- ・正解がある問題を子どもたちに答えさせる場合、または、求める基準がある活動の場合（例；学芸会の台詞で、これくらいの声は出してほしい、という場合など）、それが良いのか悪いのかを明確に評定することを意識してきました。「99点！」などと言うと、なぜ「100点」ではなかったのか、子どもたちは懸命に考え始めます。そうした中で、正しい答え（あるいは、より良いパフォーマンス）を求めることが、子どもたちの成長につながってきたことを感じています。また、評定するうえで「高得点を与える」ことが、脳内にドーパミン（やる気につながる神経伝達物質）を出すことにつながるということが分かっています。そのことを知って以来、意識的に高得点を与えるようにしてきました。高得点を与えた方が学習意欲につながることを「実感として理解することができた」のは、今年度の成長の一つです。今後も、子どもたちのさらなる学力向上のために、何が良くて何が悪いのかを明確に伝えることを意識して取り組みます。

④ 二人組や班で確認させる活動を取り入れることで、以前よりも確実に学習させることができるようになってきた。

- ・今年度、自分の中で最も大きな気づきの一つが、「今までの自分は、いかに確認することが甘かったか」ということです。確認したつ

もりで、確認できていなかったことがたくさんあったことに、今さらながら気づかされました。それ以来、「いかにして確認をする／させるか」というのが、私の課題の一つとなっています。そうした確認の一つの方法が、二人組や班での確認です。こうした確認させる活動を取り入れることで、以前よりも着実に学習を行うようになってきている手応えがあります。今後も、子どもたちにさらなる力をつけられるように、いかにして「確認」をしながら進めていくか、今後もより良い方法を探し続けます。

⑤ 型（教科書のモデル文、私が示す話し方の例など）の真似をさせ続けることで、勉強が苦手な子どもも前向きに学習に取り組む場面が増えてきた。

- ・自分で考えさせることは大切なことですが、それは、考える材料がその子の中にあることが前提です。考える材料がその子の中にある場合、いくら考えさせても、自分で考えることは不可能と言えます。こうした場合に有効なのが、「お手本を真似する（参考にする）」ということです。真似をする（参考にする）ことは、考える材料を取り入れること。真似をして（参考にして）初めて、自分で考えることができるようになっていくものです。どの教科であっても、私が何度も何度も、繰り返し子どもたちに伝え続けてきたことがあります。「教科書を真似しなさい」「教科書を参考にしなさい」「良いと思う人の真似をしなさい」「上手な人を参考にしなさい」。教科書には、子どもたちが答えるヒントがたくさん書いてあります。そのヒントを十分に使えるようになることが、最も大切なことの1つだと思います。目の前にある情報（教科書にある情報／担任が示す情報）を有効活用できるようになって初めて、自分で情報を探して活用することができるようになる。今後も、子どもたちがさらに生きる力を伸ばすことができるよう、型（教科書のモデル文、私が示す話し方の例など）の真似をする大切さを

伝え続けます。

10-B

- 学校全体として、雰囲気明るくなり、良い方向に向かっていているように感じます。それは、保護者の皆様と私たち教職員が同じ方向に向かい出し、子どもたちにとってより良い環境を模索し続けてきた結果だと思えます。私の胸に刻まれている言葉があります。「相手のことを全て知ったら、その人のことを嫌いになれない。」人は皆、それぞれの信念に基づいて行動しています。しかしながら、考え方は多様であっても、保護者の皆様と私たち教職員は、「子どもたちのために」という思いを共通して持っている。そうであるから、相手が何を考えているかを全て知ったら、（たとえ自分とは違う信念に基づいて行動していたとしても）嫌いにはなれない。知れば知るほど、（それ以前よりも）好きになるのが人間というもの。相手のことを好きになれば、それだけ、相手のためにもなることをしようと思えるもの。この学校評価『ふれあい』も、保護者の皆様と私たち教職員との意思疎通に役立っているのは間違いないと確信しています。子どもたちのためにご協力いただいている保護者の皆様に、改めてお礼を申し上げます。本当に、ありがとうございます！！
- 学校全体として良い方向に向かっていているとは言え、課題はまだまだ山積みです。その課題の一つは、学力向上にあると思います。私が尊敬する教師は、次のように言います。「最大の道徳教育は、算数。算数ができるようになったら、勉強ができるようになった気になる。勉強をできるようにさせてくれる先生の言うことだったら、子どもは素直に聞く」。私たち教職員としては、このことを念頭に置いたうえで、子どもたちの心の成長のためにも、さらなる学力向上を目指して取り組む必要があると感じています。教職員全体で、授業力を上げられるように少しでも有益な情報の共有を目指して取り組んでいきます。

3. その他（あれば…で結構です）

- 保護者の皆様から、「保護者の私たちも全体を自分のこととして考え…尽力していきます」「少しでも学校を良くする思いを保護者ももちたい」「親や大人がまず子どもの良き見本となるよう、今一度襟を正して向き合えねば」といったご意見をいただいています。「まずは自分から変わろう」という趣旨の内容を書かれた保護者の方が増えてきているように感じ、非常に嬉しく感じています。（私も、まずは自分から変わることのできる大人でありたいと常々考えています。）子どもは、私たち大人（保護者／教職員）の姿をよく見えています。今後ますます保護者の皆様と教職員が同じ方向を向いて、より良い嵐山東のために、手を取り合って進んでいくことが楽しみです。
- 『『ぴかそ』が始まってからめちゃくちゃ掃除しなあかんねん』と文句を言う子に「掃除をして偉いね」と言っている、という保護者の方のように、子どもの見方を変える声かけをするのが、私たち大人の役割だと思います。子どもたちは、わずか数年の人生経験に基づいた「自分の常識」という非常に狭い価値観の中で、あらゆるモノを見えています。そんな子どもたちに対して、私たち大人が子どもたちの考えを受け止めるだけであつたら、子どもたちの考えは非常に狭い価値観の中に留まってしまうしかありません。そのようなことをしては、子どもたちの成長はないといっていいいでしょう。私たち大人の役割は、子どもの見方を広げることです。モノの見方が広がることこそ、「成長」と呼べるのだと思います。「成長＝モノの見方が広がること」。子どもたちの言葉を受け止める際には、受け止めたうえで、「より好ましい見方」を提示したり、「違う見方」を提示したりすることが必要でしょう。私たち大人の役割は、子どもたちを「大人」に導くことです。物事を複数の視点で見ることが出来る「大人」が一定数以上いないと、この世界はうまく回らなく

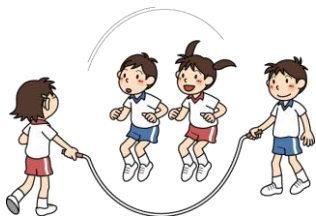
なります。(この、世界を支える「大人」の育成こそが、教育に求められていることだと思います。) 今後よりよい社会と一緒に築いていくことができるように、この世界に「大人(=物事を複数の視点で見ることができる人)」を増やしたい。そのために、嵐山東の子どもたちと保護者の皆様と一緒に取り組んでいけることを大変嬉しく思っています。

- ・素晴らしいPTAの方々、今里校長先生、前向きな教職員と一緒に働くことができたこの2年間は、本当に有意義な2年間になりました。リーダーとはどのようにあるべきか、考えさせられることがたくさんありました。今後は、この2年間で学んだことを生かしてさらに成長を続けていきます。自分の成長が、この世界を豊かにすることに少しでもつながると信じて——。お世話になった方々への感謝の気持ちを大切に抱えながら——。

11-A

見通しを持って学習に向かわせること、それができる行事などでは、子どもたちは、自分たちの持っている力を発揮し、集団としての成長を遂げることができました。それは指導者側も、それらを通してどのような力がつくのかを明確に子どもたちに伝えることができたからではないかと思います。それは日々の授業でも同じで、1時間の流れや単元の流れを子どもたちが理解し、見通しを持つことができると、前向きに学習に向かうことができました。

しかし、見通しがはっきりとせず、不安になった時に、自分たちでそれを打開する力をつけることができていないので、ざわついてしまったり、集中が途切れてしまったりすることもありました。少しずつ、自分たちで考えて行動することを増やし、自立・自律できる子どもたちを育てられるように、来年度も自分自身も見通しをしっかりと持って、指導をしていきたいと思っています。



11-B

学校行事を行う際に、子どもたちの成長を第一に考え、その中に楽しみを見つけられるように、教職員も一緒に楽しみ、前向きに取り組む姿勢を、子どもたちに見せ、良いモデルとなるように取り組むことができたのではないかと思います。

また、今年度の6年生のキーワード「あこがれられる6年生」というのは、下の学年の子たちにもわかりやすく、6年生自身も自覚しやすい目当てだったので、良いお手本として、高学年が下の学年を引っ張っていく姿の基礎を築くことができたのではないかと思います。

まだまだすべてが確立できたというわけではありませんが、教職員が子どもたちのモデルとなり、それを高学年の子どもたちが実行し、それを見た下の学年の子たちが、あこがれを持って安心して過ごす、良い流れが生まれてきたのではないのでしょうか。教職員がこの姿勢を持ち続けることで、子どもたち・保護者・地域からの信頼を受け、それがまた学校を良い方向へ導く大きな流れにつながると 생각합니다。

そのために、教職員が一丸となって、まだ残る課題を解決していく必要があると考えます。

すべての子が、楽しく学校に来て、学校を楽しめる場所だと感じられる。という部分では、子ども同士のつながり、子どもと教職員とのつながりがまだまだ細い部分も感じられるので、子どもたちが安心して過ごすことができる場所として、学校が存在できるように、行事・日々の指導を続けていく必要があると思います。

11-C

今里校長先生がリーダーシップを発揮しながら、自分たち教職員を引っ張ってくれていたことは、我々教職員だけでなく、保護者の方々も感じていたことだと思います。

来年度、その「今里イズム」を全教職員が継承できるように、一人一人が、子どもたちのために、学校を良くするために、それぞれの立場で、それぞれにできることを行っていきたいと思っています。

12-A

どの子もよくなりたい、上手くなりたい、強くなりたい、できるようになりたい、というような「より良い自分になりたいという欲求」をもっていると今年度の取組を通して強く実感しました。

しかし、子どもたちは自分たちだけではそれをどのように実現していけばいいのかが分かりません。私たちがその欲求を満たせるように、場を提供したり、方法について説明したり、悪かったことがなかったか振り返る方法についてアドバイスすることで子どもたちは生き生きと活動することができました。

子どもたちが高いモチベーションを持ち、主体となって進めることができるようになれば、学習の効果も上がります。教師が怒ったり、押し付けたりすることで行われるような時間はなるべく少なくし（私自身もたくさんありましたが。）子どもたちがやりたいと感じ、自身で考え、行動し、工夫していけるような仕掛けを私たちは一層考えていけると良いのではないかと感じました。

また「私たちもやればできるんだ」という、それらの成功体験で培われた自信が、高学年としての自覚と責任を子どもたちに少しずつ育んでくれたような気もしています。

今年度の指導について振り返るともう一つ、「他を認めること」について、手を変え品を変えながら、一年間通して言い続けてきたような気がします。人との違いや友達の個性を受容できるようになることで、安心感のある高め合いのできる雰囲気生まれてきました。

しかし、「他を認める」ためには自分が認められているという感覚が必要です。一人ひとりの子どもたちが、自己肯定感を持ちながら学校生活を送れるよう、学校ではもちろんのこと、地域や家庭とも協力していくことが大切ではないでしょうか。



12-B

この2年間でいろいろな取組が行われましたが、子どもたちにはどうしてこの取組を行うのかをきちんと説明し、目指す姿を具体的にイメージさせることを大切にしました。子どもたちは、一方的に押し付けられた取組ではなく、「自分の力を伸ばすため」の取組として努力することができたと感じています。「学校が目指す子どもの姿」を子どもたち自身も自分たちのこととして受け入れようとする素地が育っていることは本当に素晴らしいことだと感じます。（少数ですがまだまだそのような気持ちで取り組めない児童がいることは課題だと思います。）

そうやって、どの学年も、それぞれのめあてをしっかりとをもって努力する姿が見られ、お互いにより影響を与えながら成長することができていたのではないのでしょうか。学級や学年をこえた「学校」としての一体感を感じられたのもそのためだと思っています。

今年度は6年生がよいモデルとなり、子どもたち自身から「学校を良くしていこう」「下級生のお手本になろう」とする意欲が広まっていったことはこれからの嵐山東小学校の新しい伝統として受け継いでいく必要があると思います。

13-A

・子どもたちのために活動できていたかどうか考えると…正直何とも分かりません。自分の中では『子どもたちのために』と思って空回りすることも多くあるので…。

でも、自分自身というわけではないですが6年生児童のことを考えると、本当に大変な1年間をよく乗り越えてくれたなと思います。今までにない新しいことがたくさんあってとても窮屈で苦しく感じたことも多かったと思います。でもその大変な中でも私や大八木先生の思いを受け止めてくれて『あこがれられる6年生』という土台を作ってくれたと思います。いろんな先生方や来ていただいた講師の先生、行事で行った先の職員の方が『今年の6年生はと

ても素敵ですね』と言ってくださるので私たちもとてもうれしかったです。また、ほめていただいたことなども、子どもたちにも話すとそれを嬉しそうに聞いてくれているのが、失礼なかもしれませんが、まるでわが子の笑顔のようにうれしかったです。そのような幸せな気持ちにさせてくれた子どもたち、そして保護者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

これから6年生が作ってくれた『あこがれられる6年生』という土台を踏み固め、さらにこの学校を素敵な学校にしていきたいなと思います。

大きな課題としては学力をもっと伸ばしてあげられなかったことです。夏休みなど子どもたちと一緒に学習をしたりしました。子どもたちも一生懸命頑張ってくれました。けれども、もっともっと学力を引き上げたかったというのが心残りです。本来学習のことに関しては学校でしっかりと行うことが大切であり、責任であると思いますが、『クラス全員を』となるとなかなか限られた時間では難しいのが現状です。学習は積み重ねが大切です。保護者の皆様もお忙しいかとは思いますが、ご家庭でも子どもたちの学習の様子なども一緒に見ていただけたらうれしいです。

13-B

・基本的には6年生と関わり合う時間が多かったのですが、ほかの学年の児童ともできる限りかわれる時間を持とうともしていました。その中で去年の様子や4月からの様子などを思い返すと、『あ、こんなことがこんなに頑張れるようになったんだな〜』と思うことがとても増えたように思います。子どもの成長とは本当に早く、そして素晴らしいのだなと改めて感じました。全校児童のみんなが、少しずつでも『こんなことができるようになった!』『うれしいな!』という気持ちが積み重なっていくことができれば、きっと嵐山東小学校はもっともってすてきな小学校になっていけると思います。

最後に、常にピリッとするのもなかなかしんどいと思うので、『遊ぶ時は他の人に迷惑のか

からないように思いっきり遊んで、けじめをつけてやらなければならないときはしっかりやる』というようなことができるようになってほしいなと思います。

14-A

この2年間、嵐山東小学校で過ごす中で「子どもたちの大きな成長」を感じ、その姿から自分自身がたくさんのことに気付かされたり考えさせられたりしました。

その中でも特に感じていることは、私たち大人がいかにか子どもたちにとっていい見本「あこがれられる大人」であるかということです。自身をふり返って、どれだけ「あこがれられる大人」になれていたのだろうかと反省することも多いですが、大人も子どもも当たり前のことを当たり前にする・やりきることを大切にしたいと思っています。あいさつや自問清掃、様々な行事やたてわり活動などいろいろな場面で子どもたちのがんばる姿がある一方、まだまだつけていきたい力もあります。そうした力をしっかりとつけていくことが自分自身の大きな課題だと思います。子どもたちはとても素直でそれぞれがいろんな力や可能性を持っています。それらをもっと引き出すことができれば、もっともっている力を発揮させられたのではないかと考えることが多々ありました。子ども一人一人に合わせて、またクラス・学年として、「自律」と「学力」の二つの力をよりつけていくために自分自身がもっと研鑽を積んでいきたいと感じています。

14-B

教職員だけでなく、保護者の方や地域の方が「子どもたちのより良い学校生活のために」と同じ方向を向いていつもサポートしていただいていることをとてもありがたく感じています。そうして一緒に取り組めることをありがたく、また心強く思います。

校内の研究や研修・会議などでは、互いに意見を伝えあったり、深めていたり、共有したりということが私にとってはとても刺激にな

り勉強になりました。一つ一つの取組を振り返るとたくさんの反省が出ましたが、また教職員みんなで話し合い、次に活かしていきたいと思っています。

15-A

自分の立場からの記述になります。

教師の授業力を上げるには、良い学級集団が基盤になり、子どもたちがこのクラスで良かったと思えたら、学ぶ意欲も喜びも自ずと湧いてきます。そのために年度当初は学級集団を育てるために教室環境の整備や学習規律の徹底指導で基礎づくりをしなければなりません。指導にあたっては一貫性のある内容で態度も毅然として、子どもがよくできたら褒め、できなかったら根気強く継続的に指導することが大切になってきます。担任は一人ひとりの子どもに真剣に温かく寄り添い、忙しくても絶対に手を抜いてはいけないことや、その日の指導を必ず振りかえるようにしていかなければならないことを伝えてきました。

(今年度に新規採用された)5人の先生の1年間の成長には目を見張るものがあります。本人の努力によるものも大きいですが、やはり地域や学校全体の人間関係のおかげであると思います(特に嵐山東がそうです。)私との関わりは微々たるものですが、成長はとても嬉しいです。担任のひたむきに指導に取り組む姿は、励みにもなりやる気がもらえました。毎日接している子どもたちやその保護者ならなおさらでしょう。厚い信頼関係が生まれ、こつこつとした積み上げが、1年後には素晴らしい学級集団としての姿を見せてくれました。

授業や学級経営に対する発想の豊かさや前向きな姿勢にはいつも感心し、私の方が逆に学ぶことが多く、豊かなアイデアや行動力からパワーをもらいました。

また、それぞれの学校の取組や実践を知ることができ、視野を広げることができました。

ただ、そのいいところを各校にうまく発信できなかったこと、管理職やコーディネーターや学年主任とじっくり話し合う時間が充分にと

れなかったことが課題として残ります。

15-B

今年度も昨年度以上の成果が出て、学校の主役である子どもたちの明るく元気なあいさつ、男女仲良く校庭で遊ぶ姿、音楽やチャイムで次への素早い行動など、できて当たり前の事がさわやかにきびきびとした姿として目に飛び込んできました。

保護者版にも多数意見として掲載されていたように様々な取組は、学年末の今さらに目に見える形で実を結んでいます。

新生嵐山東のためリーダー今里校長を中心に全教職員が、一つ一つの取組に対する指導内容をしっかりと共通理解し、一丸となって全力を注いだこと、それを学校だよりやHPなどで発信し、家庭や地域に協力を得たことで学校に活気が溢れるようになったのでしょう。

学校のHPの毎日の更新は、週一回勤務の私にとっては、学校やクラスの様子がよくわかり楽しみなものになっていました。なかなか足を運べない保護者や遠方にお住まいの祖父母の皆様にとってはきっと貴重で有り難いものになっているはずです。

学校評価の保護者版にうさぎの「ちゃめ」が死んでしまったこと、クラスで生き物を飼うこと、ビオトープの整備のことが載っていました。「命の大切さ」を学ばせてほしいという三つの御意見です。私もいつも思っていることなので嬉しくなりました。

昨今の命をないがしろにする事件発生を考えると『命を大切に教育』の取組を早急にする必要があると思います。動物飼育では、命を思いやり大切にする心の教育となったり、責任感を培ったりと様々な効果を示してくれると思われます。

しかしその必要性を認識していても、学校全体で取り組むとなると時間数の確保・教師自身の動物への意識・保護者や地域の方への理解など様々な問題が出てきます。

そう思うと授業で勝負するしかありません。道徳や各教科で生き物に関する単元の授業を

行う際は、教材研究をしっかりとした上で、臨場感・感動・発見をキーワードに発達段階に応じて授業内容を工夫し、また 教師自身も飼育体験や命に関わる様々な出会いを大事にし、その感動を子どもたちに伝える力をつけていかなければならないと思います。

16-A

ここ2年は、本来の保健室経営ができ、また、私自身にも余裕がうまれたので、児童一人ひとりに時間をとった対応ができたと思います。しかしながら、年度末になり成長した子どもたちの姿を見て嬉しいのと同時に、私にもっと何かしてあげれることがあったのではないかと反省する部分もあります。

16-B

以前に比べて小声ながらもあいさつができてきているように思いますが、目標達成率は低いと思います。道徳教育を中心に心の育成に努力が必要だと感じます。また、大人の中にもあいさつができない人もいるので、子どもの手本になるよう自分自身も見直すべきだと思いました。

あいさつも、体の反射のように、言う側、受け取る側がポンポンと意識しなくても返答出来るようになれば素敵だなとも感じます。

16-C

教職員集団「チームあらひが」としての雰囲気や環境もよく、気持ちよく仕事をすることができました。

今年度より、隔週ではあるけれど、スクールカウンセラーの配置があり、児童や保護者の抱える悩みを受け止めてくださり、また、学校においてもカウンセリング機能の充実にもなり、学校の教育相談体制に大きな役割を果たしてくださっていると感じます。

この1年間、体育服を貸し出すことが非常に多かったです。保健室で体育服が借りられることを当たり前だと思っていて、また、返却が遅くなっても何の罪悪感も感じておらず、逆に貸

し出した体育服を紛失し、返却されないままになることもあります。忘れたら困るという思いがないのだろーと思いたすが、保護者の方々にも確認や声かけなど、ご協力いただかなくてはならないと感じます。

17-A

児童と接する機会は朝の登校時ぐらいなのですが、見かけたらあいさつをするようにしています。学校全体の取組もあって昨年度より返してくれる子が増えたように思います。

読み聞かせや教職員の出し物などに参加する際には真剣に楽しくやることを心掛けました。児童に姿を見せることが少なく、こういった機会のときぐらいしか関わることがありません。数少ない機会のため、今後もこういった取組の際には児童に恥じない姿勢でやっていきたいと思っています。

17-B

毎日、一人一人の児童を見ているわけではありませんが、だからこそ集会や宿泊学習などから帰ってきたときの雰囲気の違いや成長の違いを如実に感じるが多々ありました。

また、きらめきタイムやそういった発表の場で友達を気遣う場面や、年下の子の面倒を見る姿などを見て、発表の場やたてわり活動などの取組が功を奏しているのかなと感じました。

18-A

- ・学校運営方針や学校評価を生かして教育計画を立て、学校教育活動の充実と推進を図った。教職員はじめPTA・地域の方のご理解とご協力をえて、大きな滞りもなく学校運営がほぼ計画どおり遂行できたのでよかった。
- ・学校行事や各学年の取組など学校だよりやHPで情報発信し、学校と保護者や地域との連携を深めることができた。
- ・管理職や拠点校指導教員の谷口先生と連携・協力しながら、初任者とのコミュニケーションを図り、初任者の授業改善と生徒指導に指導助言するように努めたが十分な働きができなかった。

18-B

- 教育目標は明確でわかりやすく、学校長の学校経営方針や、めざす子ども像が教職員にしっかりと伝わった。
- 学校評価アンケートの結果をみると、いろいろな取組の成果で子ども達や学校が良い方向に変容してきたと感じる保護者が増えている。
- 「嵐山東スタンダード」を活用して共通理解を図り、協力体制をとりながら子ども達を指導できたのは良かった。
- 教職員同士のコミュニケーションが増え、いい雰囲気の仕事に専念することができ、チーム（組織）としてのまとまりが感じられた。
- 全教職員が校務分掌上のそれぞれの立場で自分の個性と能力を発揮し、目標に向かって取り組む姿が見られた。
- 職員会や研修会でも積極的に意見の交流を図り、学んだことを学級経営に活かせるように努力した。
- 規律ある生活習慣は少しずつできてきたように思えるが、ジョイントプログラムの結果をみるとまだまだ課題は多いことがわかった。今後さらに学習規律の徹底を図り、一人一人の基礎学力の定着を図りたい。
- 図書室のビフォーアフターにより新しい読書環境が生まれ、子ども達の読書に対する興味・関心を高めることができた。
- 道德教育と特別活動の有機的連携を図り、自覚や責任感を育てるのに効果的な活動ができたのではないと思う。特に運動会や宿泊学習など心や力を一緒に合わせて取り組んだ体験は、道德的価値の大切さを自覚する絶好の機会となった。
- 「あこがれられる6年生」を合言葉に、6年生がたてわり活動や清掃、委員会活動など、「みんなが楽しめるように」「自分たちが見本になる」「進んでやろう」という前向きな気持ちで取り組む姿が見られた。その姿が刺激になって、「自分たちもあのような6年生になろう」という良き伝統を築くことができるようになれば、学校全体の資質が向上する

ことにつながっていく。

- 「なかよしチャレンジ新聞」によって各クラスで取り組んだ友だち関係を良好にするための話し合いのテーマや感想の交流を深めることができた。
- 自問清掃（ぴかそ）の「がまん玉」「しんせつ玉」「みつけ玉」を磨くことを通して、掃除にしっかり取り組むことができる児童が増えた。しかし2年目になって少し慣れてきたのか「黙って掃除に取り組む」ことに課題が見られる場面もあった。
- 栄養教諭の熱心な指導や具体的な教材提示のおかげで食に対する興味・関心が高まった。来年度は食べ物アレルギーに対する個別対応についてより一層連絡を密にして情報の共有をしていかなければならない。
- 保健指導や保護者の協力により、子どもたちの基本的な生活習慣を確立することができた。特に「腰骨を立てる」指導は、学習規律を整え、人の話をしっかりと聞ける体制づくりに効果的であった。
- 見守り隊の方にお世話いただいて子ども達の登下校の安全を確保することができた。
- クラブ活動や部活動を通して体を動かすことの楽しさを感じたり運動を継続することの大切さを学んだりすることができた。持久走大会でも自分の目標を明確にもって一生懸命走る姿が見られた。
- 嵐山東小学校と松尾小学校、松尾中学校の三校主任会を通して児童・生徒の様子や学力の定着度について情報交換を行い、指導に生かせるよう連携を図ることができた。松嵐スタンダードで「自分から進んであいさつしよう」の標語を作って実践したり、来年度からは立腰指導に関する取組を開始する予定であったり、小中9年間で同じ目標に向かって子ども達を育てていく体制づくりが少しずつ出来上がっているように思えるので、この取組を継続していきたい。



19-A

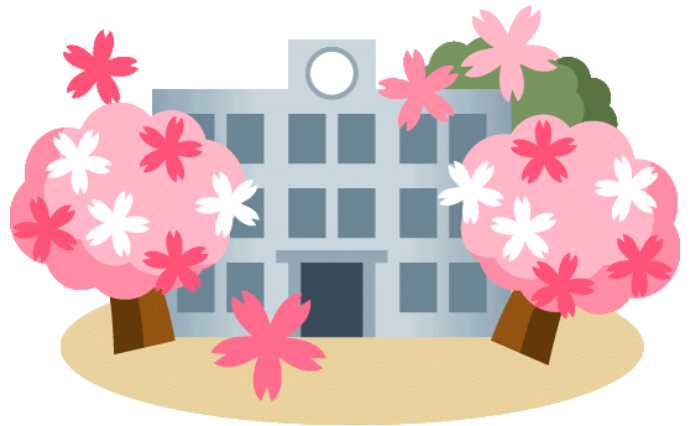
- 学校の取組を保護者・地域の皆様に知っていただくため、HPの充実を図ってきました。日々の学習の様子、当たり前の学習風景をHPに掲載してきました。このHPを見て、ご家庭で話題にいただければとの思いから取り組んできました。この思いは、保護者の皆さんに届いたのではないかと考えています。次年度からもこの方針で継続していこうと考えています。
- 靴のかかとをふまないようにとの声かけを続けています。自分から気をつける子が増えてきていると感じています。これからも続けて声かけをしていきたい。しかし、体育館シューズで校内を歩くことに違和感を感じていない子もいるので、このことについても声かけをしていきたいと考えています。
- 嵐山東スタンダードを子ども達が持つようになり、規範意識が向上しつつあるように感じています。さまざまな機会にこれからも意識させたいと考えています。

19-B

- この2年間、子ども達の規範意識が向上してきていると感じています。特に学習に関する規範意識の向上が目覚ましいです。保護者の皆様のご協力を得ながら、教職員が一致した取組を進めた結果であると考えていますがまだまだ不十分な点もあります。これからも教職員が一致した取組を進め、自分たちのしていることを保護者・地域の皆さんに伝え、ご協力を得ながら進めていきたいと考えています。
- 子ども達のあいさつについては、様々な評価をいただきました。2年前に比べるとあいさつをする子が増えてきたと思います。いつでも元気にできているかと言われると、できている子はとても少ないと感じています。いつでもどこでもだれにでも、しっかりとあいさつができる子を育てていくことが必要であると感じています。そのためにも、教職員が子ども達の良いお手本になるようにし

ていかねばと考えています。

- さまざまな学級の学級通信を読んだり授業の様子を見ていると、子ども達が自分の思いを言えるようになってきているように思います。自分の思いが言える子を増やしていきたいと思います。



学校評価：後期教職員版を最後までお読みいただきありがとうございました。

今年度も学校教育目標『育てよう 子どもの思い・思いやり』を掲げて教育活動を展開してまいりました。個人として、また学校全体として一定の成果を出せた部分もあると思いますが、新たな課題も見えてきたように感じています。特に、子どもたちの「自立と自律」については我々教職員の関わり方全体を見直していく必要があると考えています。

来年度も引き続き、子どもたちの「学校が楽しい」のために保護者の皆様や地域の方々の手厚いご支援をお願いいたします。